



アネレム[®]を投与される 患者さんご家族の方へ

監修 北里大学医学部 消化器内科 准教授

池原 久朝 先生



Ⅰ はじめに

アネレム®は、消化器内視鏡診療時の鎮静に使用されるお薬です。

消化器内視鏡治療は複雑化しており、鎮静を行うことは不可欠といえます。また、消化器内視鏡検査時においても適切な鎮静を行うことにより、不快感や苦痛から解放されるとともに、不必要な体動もなくなり、安心かつ速やかに内視鏡検査を受けられます。

この冊子では、アネレム®を使用することにより適切な鎮静が得られ、内視鏡検査や治療が滞りなく行われるよう、アネレム®の投与に際してご注意いただきたいことや、主な副作用の症状などをまとめました。

アネレム®投与の前にご家族とともにご一読いただき、わからないことや不安なことなどがあれば、いつでも遠慮なく医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフにご相談ください。

Ⅰ アネレム®とは

アネレム®は、静脈内に投与し、速やかな鎮静が得られることを目的としたお薬です。

アネレム®は、脳の神経に作用して鎮静を促します。消化器内視鏡検査・治療に適した鎮静は、意識がかりうじて残っている「ぼんやりしている状態」です。嘔吐反射を軽減するとともに、内視鏡検査・治療に対する不安感や不快感の軽減も期待できます。

自分で行う呼吸（**自発呼吸**）が完全になくなる全身麻酔とは異なり、鎮静されている状態では自発呼吸が保たれます。

十分な鎮静作用が得られたと医師が判断した後に、内視鏡検査・治療が開始されます。

アネレム®投与中から投与終了後に意識がはっきりするまでは、モニターをつけて全身状態（胸部の視診及び心電図、血圧、脈拍、血中酸素飽和度など）を確認します。検査・治療が終了し、鎮静から回復して安全な状態であると確認したあとし、帰宅あるいは病室へ移動していただきます。



I アネレム®の投与を受ける前に

以下の項目に該当する方はアネレム®を投与できない場合があります。
投与前に必ず医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフにお伝えください。



アネレム®の投与を受けることができない方

- ✓ **以前にアネレム®の成分に対し過敏症を起こしたことがある方**
- ✓ **急性閉塞隅角緑内障と診断された方**
眼圧が上昇し、症状を悪化させるおそれがあります。
- ✓ **重症筋無力症と診断された方**
筋弛緩作用により症状を悪化させるおそれがあります。
- ✓ **ショック状態の方や昏睡状態の方、バイタルサインの抑制(脈拍や血圧の低下)がみられる急性アルコール中毒の方**
呼吸抑制や低血圧を増強させるおそれがあります。

アネレム®の投与を受けられない場合がある方

- ✓ **以前に薬物依存を起こしたことがある方**
依存性を生じる可能性があります。
- ✓ **脳に障害のある方**
アネレム®による効果が強くあらわれるおそれがあります。
- ✓ **上気道閉塞に関連する疾患(高度の肥満症、小顎症、扁桃肥大、睡眠時無呼吸症候群等)のある方**
気道閉塞を起こすおそれがあります。
- ✓ **重度の肝機能障害のある方**
症状が悪化したり、重篤化するおそれがあります。
- ✓ **妊婦又は妊娠している可能性のある方**
治療上のメリットがデメリットを上回ると医師が判断した場合のみ、アネレム®の投与を受けることができます。

アネレム®の投与を慎重に検討する必要がある方

- ✓ **授乳中の方**
治療上のメリット、母乳栄養のメリットを考慮し、授乳を中止していただく場合があります。
- ✓ **小児**
小児を対象とした臨床試験は行われていません。
- ✓ **高齢者**
アネレム®の作用が強まり、低血圧、徐脈等の副作用があらわれるおそれがあります。
- ✓ **睡眠薬や、抗不安薬を普段からよく飲んでいる方**
アネレム®の効果が弱まり、十分な効果が得られなかったり、お互いに作用を強め副作用が発現するおそれがあることから、必ず投与前に医師に申し出てください。

■ アネレム®の副作用について

アネレム®の投与時には、次のような副作用があらわれることがあります。アネレム®の効果には個人差があるため、副作用のあらわれ方は患者さんによって異なります。

■ アネレム®投与時に起こりうる副作用

安全な鎮静を行うため、アネレム®を投与する際には内視鏡検査・治療中及び検査・治療終了後も全身状態をモニタリングします。

次の症状がみられた場合には、医療スタッフが速やかに適切な処置を行います。

・呼吸抑制、低酸素症

呼吸抑制やそれに伴う酸素不足により低酸素状態が起こることがあります。

・血圧低下、徐脈

心血管系障害のある方、重度の心機能障害のある方、高齢の方は血圧低下や徐脈を起こしやすいため、注意深くモニタリングします。

上記の症状が速やかに改善されない場合には、アネレム®のはたらきを妨げることにより、副作用による症状を改善するお薬を投与します。

■ その他の起こりうる副作用

通常の状態に覚醒するまでに時間がかかり、検査・治療終了後も次のような症状を感じることもあるかもしれません。

そのため、検査・治療終了後も鎮静状態が回復するまでは帰宅や病室に移動せず休んでいただきます。

・傾眠 … ウトウトと意識がまどろむ状態、声かけや軽い刺激で目を覚ます状態

・倦怠感(だるさ)

・頭痛

・浮動性めまい … ふわふわと浮いているように感じるめまい

・悪心、嘔吐



帰宅後もこのような症状が続く場合や、その他にも気になる症状がある場合には医療機関にご連絡ください。

Ⅰ アネレム®の投与後に気を付けていただきたいこと

鎮静の効果や覚醒するまでの時間には個人差があり、検査後の説明を聞いていただいた後でも、眠気やふらつきが残る場合があります。

アネレム®投与当日は、鎮静から完全に回復したと思っても車・バイク・自転車の運転をしないでください※。患者さんご自身の安全のため、当日はご家族のお迎えなど、ご自身で運転をしないで帰宅いただける交通手段をご利用ください。

また、危険を伴う機械の操作は行わないでください。

ご帰宅後もめまいやふらつきなどの症状が治らない場合や悪化してしまった場合は医療機関にご連絡ください。

※道路交通法第66条(安全運転の義務)に違反する可能性があります。



医療機関連絡先